



万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707
発行者：北野正剛
編集責任：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部事務局長
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)
印 刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

WELCOME TO WCS2017
in Basel, Switzerland

Pierre-Alain Clavien &
Nicolas Demartines
Co-President LOC WCS2017



When the Japan Chapter of ISS/SIC chose Yokohama as the host-city of WCS2011 and had organized a most memorable, attractive and successful congress, many Japanese surgeons discovered this very remarkable, special and diverse biennial event. Participants from abroad had over and above a chance to explore your fascinating country. Now it is Basel that invites you to attend WCS2017. Take a few minutes and find out all the details on www.wcs2017.org. A well balanced, attractive scientific program, various specialties represented from all around the world, the postgraduate courses for younger surgeons, key note lectures, panels, movie sessions, a career advancement course, a scientific writing course and many other features. The fact that at the deadline a record-high 1157 abstracts had been submitted shows the interest this international meeting is generating.

Basel has one of the oldest Universities in Europe which goes back to the year 1460. The early establishment of a printing shop attracted scientists, humanists like Erasmus of Rotterdam. Here Vesalius printed his revolutionary anatomy book "De humani corporis fabrica". Basel, situated on the Rhine river



Basel City

in the north-west of Switzerland, has a splendid old city adjacent both to France and Germany in the very center of Europe.

The cultural heritage of Basel is world class with several museums featuring some of the world's most famous paintings. At the same time Basel is a dynamic center turned towards life-sciences, biotechnology. Here are the headquarters of Novartis and Roche. Their roots here go back to the 19th century.

When back home we think about Japan, Mount Fuji, Kyoto and your beautiful Japanese traditions come to mind. When you in Japan imagine Switzerland you may dream of the famous mountains Matterhorn and the Jungfrau, the cities of Lucerne, Interlaken and the 4 different languages spoken in this tiny country of less than 10 Mio. inhabitants. Switzerland is so small that you can reach many of the famous touristic destinations in a day-trip (if you really are in a hurry!). But you better take your time and enjoy the swiss hospitality. Ask your travel agent. Take some vacation time, perhaps with your family? There is so much to be seen also across the border in Germany or France: From Basel within one hour you are in Strasbourg, pearl of Alsace and the city of the European Parliament. Enjoy French cuisine and outstanding white wines of this area. The Black-Forrest area in Germany offers many similar opportunities and in addition it is the home of high quality instrument makers in the medical field and surgery besides cars.

The Congress dates are August 13-17, 2017.

Don't miss the regular registration deadline on April 26, 2017. Also contact your travel agent already today and get your trip organized. Daily flights from Japan to Basel are available via Zurich, Frankfurt, Paris, London, Amsterdam or any other major cities in Europe.

We will be delighted to welcome you here in Basel and will do everything for you to feel comfortable and happy during an unforgettable stay.

Prof. Pierre-Alain Clavien
Co-President LOC WCS2017

Prof. Nicolas Demartines
Co-President LOC WCS2017

IAES(International Association of Endocrine Surgeons, 国際内分泌外科学会)について

伊藤病院学術顧問
帝京大学医学部名誉教授
IAES 元 Council

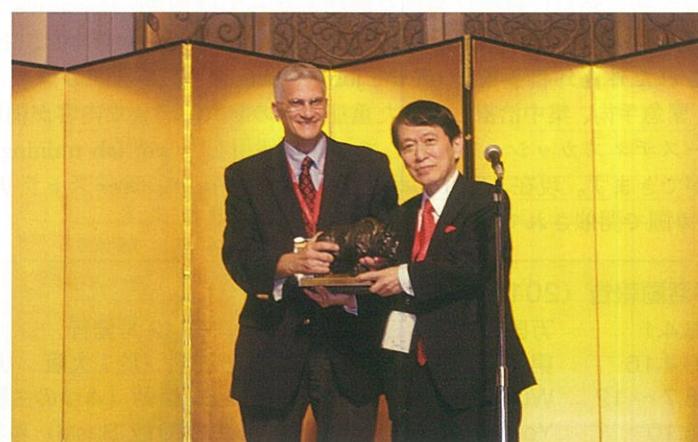
高見 博



ISS/SICの長い歴史の中でIAESは1979年に誕生しました。その前年、Norwayの外科医Peter Heimann教授によってIAESの設立が計画されていましたが、不幸にも胃がんで倒れました。その遺志を継いで1979年のLondon大会で12名の有志とともにIAESが立ち上りました。日本からは藤本吉秀先生がこの華麗なメンバーの一員になっております。私は藤本先生から、ご生前抄録集などを見せていただきましたが、とても第1回とは思えないほど学問的にも、臨床的にも立派なものでした。このPeter Heimann教授のメモリーとして1983年よりPeter Heimann Lectureが行われ、それは本学会で最高の名誉となっています。

私は2005年のParisの学会でFree Paper Sessionで講演して以来、現在まで毎回、演者か座長を務めさせていただいております。一番、印象に残ったのは「橋本病」に関する特別講演です。奈良在住のご子息に会いに行き貴重な資料をお借りしました。日本人でIAESの会長をされた先生は藤本吉秀先生(1989, Toronto)と野口志郎先生(2004, Uppsala, Sweden)のお二人です。ちなみに、私は2004-2009年までCouncil memberで、少しは本学会の発展のために寄与したつもりです。内分泌外科の分野ではこの会が国際的に最も大きいのです。したがって、会員も400名を超え、学会参加者もこの分野にしては多いです。直列一列の口演形式で、後日、World Journal of Surgeryに一冊半程度の特集が組まれています。

さて、場面をISS/SICに移します。この学会は6つのCollective Member Societiesを含め、いろいろな分野の領域をカバーしております。開催国などにも影響されると思いますが、会員数、参加者はアメリカに次いで日本が多いと聞いております。選挙ではないし、学問では大きい小さいで価値観に差をつけるつもりはありませんが、日本人が力を合わせISS/SICがさらに光り輝くことを祈念しています。ISS/SICでの日本人の会長は出月康夫先生、北島政樹先生が務められております。特に、2007年のモントリオールでの北島会長の時には盛会で高い評価がありました。2011年の横浜での開催に関しては当時アジアの代表理事でありました比企能樹先生が多大なるご尽力をされたと聞いております。ちなみに、この写真は私がChair, Local Organizing Committee for IAESとして、Executive Committee Meetingで挨拶をしているものです。どうも最近の風潮として、「内向き」になっている感がします。是非とも海外に出て、世界に挑戦して欲しいものです。

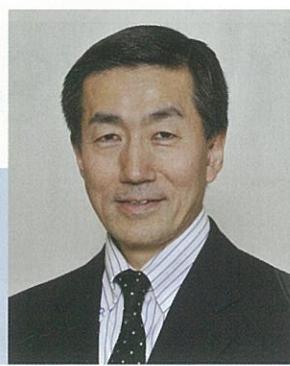


2011年、横浜でのIAESのLOCのchairを務めた私とsecretary treasurerであったGeoffrey Thompson先生

万国外科学会(ISS/SIC)と日本小児外科学会のつながり

聖マリアンナ医科大学 病院長 小児外科教授
前 WOFAPS アジア代表理事

北川 博昭



私が当時の日本小児外科学会(JSPS)から国際広報委員長を拝命しWOFAPS(World Federation of Association of Pediatric Surgeons:世界小児外科学会連合)アジア代表に推薦されたのは2010年キューバのHavanaで開催されたWOFAPS理事会でした。私にとって、今まで雲の上の存在だった多くの世界の著明な小児外科医と国際的な活動の機会が与えられたのはこの時からだと記憶しています。万国外科学会(ISW)とWOFAPSのつながりは強く、過去のISWの小児外科プログラムはWOFAPS理事長を務められた故Jay Grosfeld教授が立案していました。私もWOFAPS理事としてISW 2011 Yokohamaからこの両者のつながりにいろいろな関わりを持つ機会が与えられました。日本小児外科学会の多くの若手会員はISW 2011 Yokohamaを契機に万国外科学会(ISS/SIC)の会員になり現在にいたっています。

当時を思い返せば、ISW 2011 YokohamaではWOFAPSメンバー、海外からの講演者と日本小児外科学会会員との夕食会がRoyal Park Hotel最上階の中華料理店でおこなう企画がありました。私と当時の日本小児外科学会(JSPS)理事長岩中督先生(前埼玉県立小児医療センター病院長)、北里大学小児外科田中潔先生3名で企画する事となりました。立食パーティーを予定しましたが限られた予算で、若者のお腹にたまる料理を考え、ラーメン餃子ではなかったですが食事の量が多い中華料理が最適と考えパーティープランを立てました。学会当日、例年WOFAPSとJSPSの合同食事会は着席が基本、海外からの講演者、特にWOFAPS理事会メンバーから会費は取らない等の決まりがあったようで、あわててホテル担当者と皆の座席を用意し、立食パーティー用に1つ盛りの中華料理をテーブル毎にとりわけ、学会員の奥様を各テーブルに座っていただき、料理を取り分けていただく役をお願いし、ヒヤヒヤ、ドキドキしながら食事会が始まりました。食事中の観賞は学会員の中からバイオリン(聖マリアンナ医科大学:川瀬弘一先生、筑波大学:高安肇先生)、沖縄の三線等(北里大学:武田憲子先生)、歌を取り入れ、皆様に楽器の腕前の披露をお願いし、私は浴衣で海外からの「おもてなし」をおこない、多いに盛り上りました。この手作り小児外科ISW

2011 Yokohama食事会は海外からの先生には自画自賛ではありますが大変好評で、翌日からの小児外科の演題では、若手が気軽にdiscussionに参加でき、大変盛り上がる結果となりました。

あれから早いもので6年が経過し、世界各地で開催されるWOFAPS理事会に参加するたびにWord Congress of Surgery(WCS:当時のISW)の小児外科プログラムのことが話題にあがりました。ISW Yokohamaの成功を契機に、JSPS50周年記念式典、昨年の九州大学田口智章会長が主催したJSPSとアジア小児外科学会合同開催も、WOFAPS理事会の協力を得ることができ、私にとってはISW 2011 Yokohama無くして国際舞台には出られなかつたと思っています。

今まで長い間プログラム作成にかかわったJournal of Pediatric SurgeryのChief Editor、Jay Grosfeld先生がそろそろ自分はこの役職をおりてアイルランドのPrem Puri教授にお願いしたいと述べてから1年もしなかつた昨年暮れ、Jay Grosfeld先生が御家族に見守られて御逝去された訃報を受け取りました(2016年10月19日)。私にとりましてISW Yokohamaから始まった国際舞台への挑戦はその後のWOFAPSアジア代表理事につながり大変有意義な思い出を多く作っていただきましたこと、大変感謝申し上げます。



故 Jay Grosfeld 先生と著者



Dublin の Prem Puri 先生と ISW 2011 Yokohama 参加者

日本人インストラクターによるDSTCコース

大阪市立大学大学院医学研究科
救急医学教授
IATSIC Japan 副代表

溝端 康光



DSTCコース

近年、交通環境や労務環境、社会的セーフティーネットの整備などにより重症外傷、特に体幹部重症外傷の発生数は減少しつつあります。さらに、胸腹部臓器損傷に対する非手術療法やinterventional radiologyの有効性が示されるなか、体幹部外傷に対して手術を実施する機会は少なくなっています。しかし、重篤な病態を呈する胸部・腹部・骨盤外傷に対し、迅速かつ効果的な緊急手術を要する症例が無くなることはありません。このため、如何にして外科医の外傷手術技能を向上・維持させるかが世界的に重要な課題となっています。Definitive Surgical Trauma Care(DSTC)コースは、IATSICの6人のメンバーが考案し、その後改良、作成された外傷外科手術のoff the job trainingです。3日間のコースには、初期蘇生、緊急手術、集中治療といった重症外傷の診療に必要な内容が網羅され、講義、ケースディスカッション、そしてブタを使用したwet lab trainingを経験することができます。現在、DSTCコースは、ヨーロッパ、オーストラリア等を中心に27カ国で開催されています。

日本での DSTC コース

日本におけるDSTCコースは、2012年、帝京大学において初めて開催されました。この時、東京医科大学救急医学 行岡哲男教授を代表とするIATSIC Japanが結成され、DSTCの日本開催に尽力された帝京大学救急医学 藤田尚准教授が事務局長を務めるなか、コース開催やIATSIC入会支援活動などをを行っています。日本でのDSTCコースは、その後も年1回の頻度で開催されており、2014年からは韓国からの受講生が参加し、日本の外傷診療との比較も交え、大変実践的なケースディスカッションが実施されています。

毎回のDSTCコースにはKen D. Boffard先生が数名のインストラクターとともに来日され指導されています。同時にIATSIC Japanのメンバーが助手を務めるなか、これまでに数名の日本人インストラクターが誕生しました。また、2015年にDSTCテキストが第4版に改訂されたのをうけ、IATSIC Japanメンバーによりその翻訳本が発刊されました。本書には、コースで指導される手術内容に加え、外傷麻酔やチームワークなど最近のトピックが収載されています。

翻訳本の出版、日本人インストラクターの育成等が進んだことをうけ、本年3月には日本人インストラクターによる日本語でのDSTCコースを初めて開催することができるようになりました。

外傷手術の修練におけるDSTCコース受講ポイントと今後の開催について

日本外科学会外科専門医制度において、外傷手術の修練が、症例数からポイント制に変更され、DSTCコースの受講により4ポイントを得ることができます。これを受けて、若手外科医の要望に対応できるよう、平成29年度より東京と神戸で年4回コース開催する予定です。

体幹部重症外傷の診療に携わる機会のある外科医の先生には、この機会に是非ともDSTCコースを受講されることをお勧めいたします。

支部活動報告(2016年1月~12月)

- 2016.4.1 万国外科学会日本支部ニュース第42号発行
- 2016.4.16 第41回万国外科学会日本支部総会(於:大阪 リーガロイヤルホテル大阪)
- 2016.7~12 WCS2017 Basel プロモーション活動(4つの主要外科学会でポスター、ちらし設置)
- 2016.10 Yokohama Award 第3回(WCS2017 Basel)募集
- 2016.11.1 万国外科学会日本支部ニュース第43号発行
- 2016.11.26 第42回万国外科学会日本支部総会(於:東京 グランドプリンスホテル新高輪)
- 2016.12 山川達郎先生名誉会員推戴

会員動向(2017年3月15日現在)

- | | | |
|-----|-------|---------------|
| 会員数 | 360名 | (2016年新規会員1名) |
| 内訳 | 正規会員 | 332名 |
| | シニア会員 | 26名 |
| | 名誉会員 | 2名 |

第42回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2016年11月26日(土曜日)午前7:15~8:00

於:グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール1階「黄玉」

出席者:井本 滋、臼杵尚志、海野倫明、岡本高宏、小澤壯治、片井 均、片田夏也、兼松隆之、北川博昭、北島政樹、北野正剛、國崎主税、桑野博行、今野弘之、島田英昭、島田光生、鈴木真一、高見 博、田尻 孝、田中淳一、寺島雅典、中村清吾、梨本 篤、野村幸世、土師誠二、馬場秀夫、東口高志、比企直樹、平田公一、福島亮治、藤田 尚、藤村 隆、前田耕太郎、松原久裕、松本純夫、真船健一、溝端康光、宮澤光男、村尾佳則、守瀬善一、山川達郎、山本雄造、横江隆夫、若井俊文、若林 剛、和田則仁、Mike Iliopoulos

(敬称略、五十音順、計47名)(事務局:奥田京子 堀里穂)

- 開会の挨拶 北野正剛日本支部長
- スイス本部 Administrative Director: Mike Iliopoulos 氏挨拶
- 前回議事録の確認
- 支部活動報告

5. ISS/SIC 理事会報告

北野日本支部長: 支部ニュースの私の報告にあるように、様々な案件について議論がなされ、Committee Meetingとしては順調に進んでいる。2017年3月に次回理事会が開催される予定であり、また報告したい。

6. World Congress of Surgery (WCS) 2017 バーゼルについて

和田日本支部事務局長: 2017年8月13日から8月17日、スイスバーゼルにおいて開催予定。主な日程は支部ニュースに記載のとおり。WCSに向けて Yokohama Award も募集を開始。また、日本支部として司会者をスイス本部に推薦する作業を進めている。演題数に応じて司会者の数も決まるので、積極的な応募を期待したい。

北野日本支部長: 司会は日本から比較的採用されているので、日本の立場はしっかりとおり、影響力はある。

7. Collective Member Societies (旧 Integrated Societies) について

IAES 高見博先生: Council の今井常夫先生は欠席、高見博先生が代理で報告。6年間 Council を務めたが、Council はあまり影響力がなく、今回 Secretary/Treasurer の Janice Pasieka 先生を通して、2名司会に推薦した。

IATSC 溝端康光先生: Definitive Surgical Trauma Care (DSTC) コースのマニュアル本第4版が今年春に出版、それをうけて日本語版が9月に出版された。DSTC コースは、次回 2017年5月29日~31日、帝京大学にて Ken Boffard 先生をお招きして開催を予定している。

IASMEN 東口高志先生: President Elect を拝命。IASMEN としては、日本から司会を4名、スピーカーを2名選出。また、韓国とのコラボレーションをはかり、韓国外科代謝栄養学会前理事長の Ho-Seong Han 先生をレクチャラーとして推薦し、承認を得ている。少しでも日本の影響力を發揮したい。

BSI 中村清吾先生: WCS 2015 バンコクまで Council Member。現在、マレーシアの Cheng-Har Yip 先生が President。中低所得国にフォーカスをあてた活動に力をいれしており、対象地域へスカラーシップやトレーニングコースなどを設けている。WCS2017 バーゼルでもそういう方を対象に、Oncoplastic Surgery Course、Ultrasound (超音波) Course を設けている。

ISDS 今野弘之先生: President Elect を拝命。ISDS 元会長の Marco Patti 先生よりリクエストがあり、WCS2017 バーゼルでの司会、スピーカーを推薦。上部、下部、肝胆膵を含めてかなりの数になると思われる。また、ISDS は会員が少なく、アジアでは80名弱、うち日本人は39名である。25 スイスフランで ISDS に追加加入ができるので、日本の発言力を上げるためにもぜひ加入をお願いしたい。

北野日本支部長: 今年11月に神戸で行われた Asian Pacific Digestive Week (APDW) では、ISDS AP (Asian Pacific) のアブストラクトが66件とアクティビティがかなり低い。昨年の台湾でも58件、一昨年のバリでは17件であり、理由として、ISDS AP は個人メンバーからなる学会であり、情報が行き渡らず、動員力が弱い。そこで、活性化のため、香港、シンガポール、タイ、フィリピン、日本がファンディングメンバーとなり、北島政樹先生を会長として Asian Pacific Society Digestive Surgery (APS) を神戸の APDW で設立した。

北島政樹先生: ISDS の日本の拠点が不透明になっていることをうけ、今後、今野弘之先生を中心に日本部会を強化していくので、ISDS の会員にぜひなっていただきたい。

北野日本支部長: ISDSへの加入が、ISS/SIC活動への日本の貢献につながるので、ぜひお願いたい。

8. 機関誌(WJS)について

片井均先生: 現在、Associate Editor。WJS のインパクトファクターは 2.523 と高い水準。2年ごとに開かれる Associate Editor Meeting では、リジェクトが適正になされているか話し合われた。リジェクトされた論文で他の雑誌にアクセプトされたものを調べると、リジェクトされた 1351 件のうち 558 件が他の雑誌に採択されている。雑誌の種類は、233 にのぼるが、インパクトファクターが低い、もしくはないものが



第42回日本支部総会にて

ほとんどであることから、リジェクトの基準は適正であると言える。引用についても、リジェクトされた 1351 件のうち 300 件は引用がゼロ、6 回以上引用されたのは 6 件なので、リジェクトの基準はよいと言える。また、日本からの投稿数は比較的多く、特に肝胆膵は良い論文がでている。WJS への投稿をぜひお願いしたい。

9. その他報告

北川博昭先生: 今まで小児外科のプログラム作成を引き受けっていた Jay Grosfeld 先生がご逝去されたことを受け、アイルランドの Prem Puri 先生が小児科部門のプログラムをすべて引き受けるとの連絡をうけた。

10. 次回支部総会日程について

次回の総会は恒例どおり日本外科学会最終日早朝を予定している。

以上(文責 和田則仁)

2016年度決算書

2016年度収支決算書.doc (2016年1月1日~12月31日)

ISS/SIC

単位:円

Ⅰ収入の部	予算額	決算額	備考
会費	1,050,000	1,050,078	6421.43ユーロ+2542ドル
広告掲載料	700,000	600,000	
寄付	0	0	
雑収入	0	900	
当期合計	1,750,000	1,650,978	
前年度繰越金	10,013,141	10,013,141	
収入合計	11,763,141	11,664,119	

Ⅱ支出の部	予算額	決算額	備考
会議費	400,000	349,020	支部総会開催(春・秋)
通信費	150,000	147,875	
印刷費	450,000	408,316	支部ニュース41号・42号
文具費	20,000	9,764	
交通費	90,000	67,900	
人件費	520,000	520,000	
雑費	20,000	11,268	
予備費	100,000	49,690	
Yokohama Award賞金	0	0	
支出合計	1,750,000	1,563,833	
取支残高	10,013,141	10,100,286	(次年度繰越金)

ユーロの部	予算額	決算額	備考
会費	0.00	0.00	
利息	0.00	0.51	
前年度繰越金	6,420.92	6,420.92	
収入合計	6,420.92	6,421.43	

Ⅱ支出の部	予算額	決算額	備考
日本円へ預替	6,420.92	6,421.43	
支出行合計	6,420.92	6,421.43	
次年度繰越金	0.00	0.00	

US ドルの部

単位:ドル

Ⅰ収入の部	予算額	決算額	備考
会費	7,600.00	8,148.70	
利息	0.00	3.11	
前年度繰越金	0.00	0.00	
収入合計	7,600.00	8,151.81	

Ⅱ支出の部	予算額	決算額	備考
日本円へ預替	2,270.00	2,542.00	
スイス本部への寄附	1,500.00	1,500.00	
支出行合計	3,770.00	4,042.00	

次年度繰越金	0.00	4,109.81	通帳残高 4,109.81ドル
残高	日本円	10,100,286円	(通帳残高 10,074,413円+現金 25,873円)
ユーロ	ゼロ	(通帳残高 ゼロ)	

US ドル 4,109.81 ドル (通帳残高 4,109.81 ドル)

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2017年2月2日 監事 田尻 孝
2017年2月7日 監事 田尻 孝**2017年度予算案**

2017年度 予算案 (2017年1月1日~12月31日)

ISS/SIC

日本円の部 単位:円

収入の部	予算額	備考
ドルから預替	750,000	6600ドル 1ドル114円で計算
広告掲載料	900,000	
寄付	0	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,650,000	
前年度繰越金	10,100,286	
収入合計	11,750,286	

支出の部	予算額	備考
会議費	400,000	支部総会2回分
通信費	150,000	
印刷費	400,000	支部ニュース2回発行分
文具費</td		

**INTERNATIONAL SOCIETY OF SURGERY (ISS/SIC)
47th World Congress
of Surgery 2017**

Basel, Switzerland
13 - 17 August 2017

主な日程 学術集会 8月14日~17日

8月13日(日) 17:00 オープニングセレモニー・レセプション
20:00 Japan Night (日本人参加者懇親会)

8月14日(月) 8:00 各Travel Scholars 表彰
ISS/SIC プレジデント講演、Martin Allgöwer 講演
19:00 Basel Night (全体懇親会)

8月15日(火) 19:00 ISDS, IAES, IATSC, BSI, ASAP, IASMEN 各学会夕食会

8月17日(木) 10:30 Grey Turner 講演
11:15 ISS/SIC 総会
閉会

Shaping the future of surgery

ETHICON
PART OF THE Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES

製造販売業者：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 本社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号
販賣商：株式会社 ネットワーカー 本社 〒150-0001 東京都渋谷区渋谷3丁目2番1号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ブラックフライヤー 本社 〒151-0053 東京都渋谷区渋谷3丁目2番1号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ジーフォード 本社 〒141-0031 東京都品川区東大崎1丁目22番2号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ネットワーカー 本社 〒151-0053 東京都渋谷区渋谷3丁目2番1号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ハーモニック 本社 〒150-0001 東京都渋谷区渋谷3丁目2番1号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ジーフォード 本社 〒141-0031 東京都品川区東大崎1丁目22番2号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ハーモニック 本社 〒150-0001 東京都渋谷区渋谷3丁目2番1号
郵便番号：222-0026
販賣商：株式会社 ハーモニック FOCUS
郵便番号：222-0026

Ethicon logo

視認性と吸収性が求められる術後創へ

ロイコメドC
フィルムドレッシング

ハイドロゲルパッドが
視認性と吸水性を提供

- 創の観察を容易にする視認性
- 湿潤環境を維持するための適度な吸水性
- 固定性と肌への優しさ

THERAPIES. HAND IN HAND.

一般名: 救急絆創膏 / 品名: ロイコメドC フィルムドレッシング / 医療機器登録番号: 13BI10103000034

TERUMO
テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

BSN medical

詳細は添付文書をご参照ください

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。
Leukomedはビースエヌ・メディカル社(ドイツ)の登録商標です。
©テルモ株式会社 2016年6月

「効能・効果」、「効能・効果に関する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤 薬価基準収載
劇薬、处方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

Aロキシ[®]静注 0.75mg
Aloxi, i.v. injection 0.75mg

Aロキシ[®]点滴静注バッグ 0.75mg
Aloxi, i.v. infusion bag 0.75mg

パロノセトロント酸塩注射剤

製造販売元
資料請求先 (医薬品情報課)
TAIHO 大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.010-20-4527 FAX.03-3293-2451
http://www.taiho.co.jp

提携先 **HELSINN** スイス

2017年3月作成

すべての革新は患者さんのために
CHUGAI 中外製薬
Roche A member of the Roche group

AVASTIN
bevacizumab

日本標準商品分類番号 874291
抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、处方箋医薬品^{注2}

**アバスチン[®]点滴静注用 100mg/4mL
400mg/16mL**
ベバシズマブ(遺伝子組換) 注
<sup>注1) VEGF : Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)
注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること</sup>

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、效能・効果に関する使用上の注意、用法・用量に関する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

(資料請求先) 製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-6324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧いただけます。
https://www.chugai-pharm.co.jp

2017年3月作成

善意と医療のかけ橋
善意の献血による血液製剤を通じ
高い倫理観と使命感をもって人びとの健康に貢献します

血漿分画製剤(液状・静注用人免疫グロブリン製剤) 献血ウェノグロブリンIH5%静注 0.5g/10mL・1g/20mL・2.5g/50mL・5g/100mL・10g/200mL (生物学的製剤基準 ポリエチレンジゴール処理人免疫グロブリン) [献血]
血漿分画製剤(静注用人免疫グロブリン製剤(液状)) 献血ポリグロブリンN5%静注 0.5g/10mL・2.5g/50mL 献血ポリグロブリンN10%静注 2.5g/25mL 5g/50mL 10g/100mL (生物学的製剤基準 pH14処理酸性人免疫グロブリン) [献血]
血漿分画製剤(血液凝固阻止剤) ノイアート 静注用 500単位・1500単位 (生物学的製剤基準 乾燥濃縮人アンチロンビン) [献血]
血漿分画製剤 献血アルブミン5%静注 5g/100mL 「JB」 献血アルブミン20%静注 4g/20mL 「JB」 献血アルブミン25%静注 5g/20mL 「ベネシス」 献血アルブミン25%静注 12.5g/50mL (生物学的製剤基準 人血清アルブミン) [献血]
血漿分画製剤 クロスエイトMC静注用 250単位・500単位 1000mL・2000mL (生物学的製剤基準 乾燥濃縮人血清凝固第V因子) [献血]

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先) **JB 日本血液製剤機構**
2017年2月作成

[資料請求先] 日本血液製剤機構 くすり相談室 〒105-6107 東京都港区浜松町2-4-1
医療関係者向け製品情報サイト http://www.jbpo.or.jp/med/di/

プロトンポンプ・インヒビター エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル
ネキシウム[®]カプセル 10mg 20mg
处方箋医薬品^{注3}
^{注3) 注意—医師等の処方箋により使用すること}

效能・効果、用法・用量、效能・効果に関する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元 (資料請求先) **第一三共株式会社**
Daichi-Sankyo 東京都中央区日本橋本町3-5-1
製造販売元 (資料請求先) **アストラゼネカ株式会社**
大阪市北区大深町3番1号
0120-189-115
(問い合わせフリーダイヤル メディカルインフォメーションセンター)

2015年11月作成